


平成 31 年 3 月 25 日
 議員名 道下 文男 

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。
 会派視察（創風会、中山間地を守る会、無会派）

記

1、期間 平成 31 年 3 月 18 日～3 月 20 日

2、視察又は訪問先

(1) 日南市油津

【調査項目】◇空き店舗対策事業について

(2) 日南市飢肥

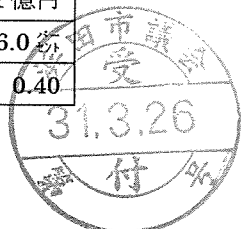
【調査項目】◇飢肥食べ歩き町歩き事業について

(3) 熊本県球磨郡あさぎり町 ⇒ 人吉市（農家レストラン「ひまわり亭」）

【調査項目】◇空き家をリノベーションし広域連携の法人化で、自立に向けて稼ぐ地域コミュニティビジネスの取組について

3、浜田市との比較

	日南市	球磨郡あさぎり町	人吉市	浜田市
市長	崎田恭平 39 歳 8 年	愛甲一典 72 歳 11 年	松岡隼人 41 歳 3 年	久保田章市 67 歳 5 年
地理	宮崎県の南部。九州の小京都の飢肥町や風光明媚な日南海岸がある、歴史と自然あふれる観光の街	熊本県の南部。2003 年に 5 町村が合併、町名の由来は秋から春にかけての球磨盆地に発生する霧から	九州山地に囲まれた盆地。国宝の青井阿蘇神社、2015 年には近隣の球磨郡各町村と日本遺産に。中心部は小京都	旧石見の国の中心地として栄え、山陰を代表する軍都であったが、現在では水産都市として機能している
市町村合併	2009 年：日南市、南那珂郡北郷町、〃南郷町（合併がもめた）	2003 年：上村、免田町、岡原村、須恵村、深田村	1942 年：人吉町・西瀬村・中原村・藍田村・大村	2005 年：浜田市、金城・旭・三隅町、弥栄村
特産品	飢肥杉、焼酎、みやざき地頭鶏、厚焼き玉子、おび天	球磨焼酎（米）ハーブ、葉タバコ、豆腐	球磨焼酎（米）、つぼん汁、アユの甘露煮（塩焼き）	どんちっち三魚、赤天、石州和紙、石見神楽面、赤梨
観光	日南海岸国定公園、鵜戸神社、飢肥城跡、小村記念館	体験型観光、◎まちの花：リュウキンカ	青井阿蘇神社、人吉温泉、球磨川下り	海洋館アクアス、マリン大橋、石見畳ヶ浦、石見神楽
面積	536 km ²	160 km ²	211 km ²	690 km ²
人口	52,000 人	15,000 人	33,000 人	54,000 人
人口密度	97 人/Km ²	94 人/Km ²	154 人/Km ²	78 人/Km ²
高齢化率	35 %	35 %	35 %	33 %
財政規模	280 億円	107 億円	165 億円	381 億円
自主財源比率	32.0 %	25.0 %	33.2 %	36.0 %
財政力指数	0.37	0.22	0.43	0.40



実質公債比率	10.3%		6.5%	10.1%
将来負担比率	87.7%			72.3%
職員数/千人	13.3人		8.54人	12.15人
議員定数	22人	16人	18人	24人

4、調査経費

◇レンタカーで移動し、初日は「日南第一ホテル」、二日目は「リュウキンカの郷」に宿泊し、調査研究をした。

5、各視察先での調査報告

(1) 日南市油津商店街「空き店舗対策事業」・・・説明：【産業経済部・商工マーケティング課】
 阪元稔史・汐口竜平 商工係主任主事、【議会事務局】中山綾香 主任主事

1) 視察に至った経緯

・浜田市において商店街が次々と閉鎖し、空き店舗が徐々に増える対策の勉強をすることとした。

2) 調査内容

◆油津のシャッター商店街再生について

ア) 導入までの経過

・2013年、33歳の最年少の若さで日南市長に当選した崎田恭平市長が、「日本一、企業と組みやすい自治体」「日本の前例は日南が創る」とキャッチコピーを掲げて、その一環として油津商店街の再生に取り組んだ。

イ) 事業内容

①崎田市長が民間人登用を提案。

・テナントミックスマネージャー・・・・・・ 木藤 亮太 (以前から地域活性に取り組んでいて、崎田市長に共鳴し333人の全国公募から選ばれた)

★月額報酬：90万円×4年間 = 20店舗の誘致 のリスクが！！

・マーケティング専門官・・・・・・ 田鹿 倫基 (宮崎大学卒業、リクルート入社、アドウエイズ上海法人の経験を崎田市長に買われた)

・まちなみ再生コーディネーター・・・・・・ 徳永 煌季 (田鹿と同様に、崎田市長の一本釣り)

②「㈱油津応援団」を結成。

- ・代表取締役：村岡 浩司 (飲食店経営のプロ)
- ・専務 役：黒田 泰裕 (商工会議所のOB)
- ・取締役がマネ：木藤 亮太

★30万円×3名=90万円の出資+45名以上の出資 = 1,800万円の資本金が！！

③2年目にして、徐々に商店街が復活。

- ・昔あった喫茶店をリニューアルし、「ABURATHU COFFEE」が開店
- ・二代目湯浅豆腐店が開店
- ・若者が関わる土曜余市が復活

・大学や高校と連携する

④3年目に、「店の人たちは、一体何を頑張ったんですか?!」商店街についての大学生の厳しい指摘があった。

★商店街の人々に火がついた!!

・多世代交流モール「油津Y o t t e n」がオープン

★交流スペースの実現によって、多様な市民活動が生まれる

・若者の吸収力の高い、事務職系企業を誘致

⑤田鹿マーケティング専門官が行政の予算ではなく、クラウドファンディングを使って世界中から325万円の資金を集め、飼肥杉を使った小物を世界最大級のギフトショーに出展。

⑥複合機能ビル「ふれあいタウンi t t e nほりかわ」が完成し、その中に子育て支援センター「ことこと」が開所。

ウ) 事業の効果

○商店街に37店舗の地元出店や誘致企業出店、及び活性へ様々な施策が

・多世代交流施設：「油津Y o t t e n」

・ゲストハウス：「f a n ! - A B U R A T S U - S p o r t s B a r & H O S T E L

・IT企業オフィスが次々と

・子育て支援センター：「ことこと」

○真っ赤な「日本一のカーブ駅」：(株)油津応援団が、クラウドファンディングでの300万円の出資で

○クルーズ船の寄港：20~30隻/年で、外貨獲得を

○IT企業の14社をはじめ、37店舗が誘致出店し、100名以上の雇用が発生

オ) 今後の課題

○クルーズ船の入港が、他の自治体も拡充して本数が少なくなっていて、なおかつ外国人の爆買いも少なくなっている。

○飼肥のように「日本の良さを売りに」と考えている。

3) 所見

まず心に響いたのは、「強いリーダーシップと行動力によって、地域を活性する!」とのこと、次に事業を進めるにあたり、「補助金ありき」から「民間の力」を最重点とし、「民間と行政」がタッグを組んで、「交渉を行政が、スピード感は民間で」といった方針であった。要は、行政は、お金ではなく地域活性への包囲網を支援する。というもの、

そして、「自己資金を出して、リスクを背負って店舗を運営する!」や、「よそ者、若者、馬鹿者」に視点を置くということの大切さも久々に感じた次第である。

視察の間にも、商店街で小中高生たちの姿を見つけたし、朝早くにこの商店街を散歩してみたが、IT企業のオフィスに通勤する若者にむこうから朝の挨拶を受けたことは、衝撃的であった。

(2) 日南市飢肥「飢肥食べ歩き町歩き事業」・・・説明：【(財)飢肥城下町保存会】後藤廣史 事務局長

1) 調査に至った経緯

- ・浜田市において、「開府 400 年記念事業」をひかえて城山周辺の整備も進んでおり、城下町での取組を勉強することとした。

2) 調査内容

◆飢肥城周辺での「食べ歩き町歩き」での観光事業の活性について

ア) 導入までの経緯

- ・平成 20 年ごろまでは飢肥城内の観光が中心で、本通りまで足を運ぶ観光客はほとんどいなかった。また、観光の形態も何か所もめぐる「駆け足観光」で低価格の業態が続き、新たな魅力のあるまちづくりが喫緊の課題であった。

イ) 事業内容

- ・飢肥を訪れる観光客を、城下町の風情を楽しみながらまた由緒施設を見学しながら、飢肥城内から城下の本町通りまで誘導し、地元の昔ながらのおいしい食べ物や手作りの商品等と引き換えるもので、時間をかけてゆっくりと楽しんでもらえる仕組みづくり『あゆみちゃんマップ』を考え出した。
- ・日南が生んだ世紀の外交官「小村寿太郎」記念館にて、日本が開国して以来の最大の課題であった《不平等条約》を改正し、関税自主権の回復を踏ったいきさつを勉強した。

ウ) 事業の効果

- ・平成 21 年 4 月 29 日からはじめて、平成 30 年 7 月 13 日に 25 万人達成記念イベントを実施した。現在 44 店舗
- ・平成 25 年 4 月に「飢肥城下町保存会」が一般財団法人となり、年間の指定管理料 58,000 千円で日南市から指定管理委託している。

エ) 今後の課題

①入館者増の取組

- ・新規事業で、飢肥城ならではの自主事業。
- ・インバウンドや移住定住など、市の施策との連携。
- ・2020 年 7 月の「東京五輪・パラリンピック」開催での 10 月からの「国民文化祭・全国障がい者芸術・文化祭の宮崎県開催での観光客取込み策。

②新たな収益事業の構築

- ・観光駐車場の有料化
- ・城内の有料化。

③飢肥のまちづくりを担う

- ・飢肥の歴史的資産を生かしたまちづくり。
- ・まちなみ再生コーディネーターを育成
- ・地域おこし協力隊の育成
- ・空き家の活用（古民家の再生）、勝目邸と合屋邸の運営、さらに小鹿倉邸を計画。サテライトオフィス（プラスデイ）や飲食店（伊藤邸）

3) 所見

(一財) 飢肥城下町保存会が昭和 51 年に発足して、飢肥の街並みを日南市から管理運営をしていて、その力強さと町の人たちの熱心な地域づくりに感心した。

そして、思い起したのが二日目の「農家レストラン」本田 節さんの言葉『所得がなければ、継続はない』で、案内をしていただいた保存会の事務局長の後藤さん（府中市の職員を 3 年前に定年退職）が今後の課題として言うておられたことが脳裏に焼き付いた。

それから、飢肥城内での歴史資料館での、飢肥城下で歴史文化の継承のすばらしさを痛感し、3,000 万円をかけての大改修をした「合屋邸」の住居空間には、目を見張るものがあった。

(3) 熊本県球磨郡あさぎり町「空き家をリノベーションし、広域連携の法人化で自立に向けて稼ぐ、地域コミュニティービジネスの取組について」・・・ 説明：【食・農・人総合研究所「リュウキンカの郷」】本田 節 主宰

1) 視察に至った経緯

- ・中山間地を多く抱えた浜田市において、グリーンツーリズム等の施策で「まちおこし村おこし」の取組を勉強しようとのことで。

2) 調査内容

◆古民家再生、農村レストラン、グリーンツーリズムでの地域活性化

ア) 取組までの経緯

- ・本田 節（昭和 29 年 11 月 10 日生）という変わり者の主婦が、平成元年に「地域づくり」という名のもとに活動していた時に 37 歳でガンに侵され、「二度とない人生！後悔のない生き方、自分の生きざまを子どもたちに残してあげることが私の生きた証ではないか」と思い、始めたのが地域づくり団体「ひまわりグループ」である。そこで、一人暮らしの高齢者宅への声をかけてを兼ねての弁当宅配のボランティアを始め、「食・農・命」をテーマに活動しているうちに「農家レストランをやりたい！」ということになった。

イ) 取組内容

- ・人生の師と仰ぐ、流通に乗らない農産物を加工し漬物として商品化に取組んだ農村ビジネスの走りに取組んだ、球磨郡湯前町下村婦人会農産加工組合代表「山北 幸」さんとの出会い、高齢者雇用と子育て支援型の「郷土の家庭料理 ひまわり亭」を立ち上げた。
- ・現在の「ひまわり亭」の業務内容
 - ①地産地消による家庭料理の提供
 - ②食を通じた地元の情報発信
 - ③地元の旬の食材を使った食文化の創造と伝承
 - ④「食・命・農」をテーマとした各種イベントの開催
 - ⑤グリーンツーリズムの開催
 - ⑥食育活動の推進

ウ) 事業の効果

- ・2005年 全国グリーンツーリズム大賞優秀賞
- ・2006年 食アメニティーコンテスト優秀賞
- ・“ふるさとづくり大賞” 総務大臣賞

エ) 今後の課題

- ・これからは、これまでの地域づくりのなどの活動をより再活性化し、持続可能な事業展開へと、エコノミー（経済の活性）とエコロジー（環境保全）が強制・調和したバランスある地域づくりを目指す。

3) 所見

とにかく、本田 節さんの笑顔が素敵であって、市の職員を退職して手伝っている妹さんの笑顔もまた格別素敵であった。2,000万円をかけてリニューアルした「リュウキンカの郷」の造りや内装も素晴らしいの一言で、何より節さんの郷土料理のおいしさが素晴らしかった。

朝ごはん、釜のご飯のおいしいこと、つぼん汁もおいしかった。

節さんは、逆境を乗り越えつつ様々な地域活性の体験をしてきただけに、研修の一つ一つに極めて重みがあり、特に「所得なくして、継続なし」は、大いに参考となる言葉であった。また、九州地方の地域の人々の「あったかさ」「やおもてなしの心」の重要さにはいつもながら感心させられた。